

飼料のカビ毒が心配されます

今年のような梅雨が長く続くような夏は、繁殖豚にとって最悪です。湿度が想像以上に体に負担を与えるのではないかと思います。同時に心配なのがカビ毒です。飼料の保存中に発生するカビも当然ありますが、もともとカビ毒は土壌中に混在する微細なカビが穀類に混じって持ち込まれたものもあり、これらに対する対処が必須です。

そのため、カビ毒が心配されるステージでは特に意識的に毒素吸着剤を使用してカビ毒が腸管から吸収されにくくする添加物が販売されています。グローバルピッグファームでは繁殖豚の飼料と人工乳(クリスタまで)についてはプレミック中に配合していますが、スターター以降の子豚肥育の飼料には含まれておりません。推奨はされていますので各ファームサービスで手配し、工場で配合していただいているのが現状です。

こうした状況の中で、最近メンバー外のある農場で強くカビ毒を疑う事例が出ましたので写真で紹介します。



(写真上)

下半身全体に赤く腫脹した豚が目立ち、特に外陰部が極度に赤く腫脹している

(写真中)(写真下)。

接写すると外陰部の特徴的な発情に似た腫脹を伴う発赤は、ゼアラレノンの可能性が高い。

実際のコーンではこのようにカビ汚染が見られる。



写真5. ゼアラレノンによる外陰腫炎(野外事例)。

もちろん、すべてのカビ毒を防止することは不可能ですが、被害を最小限に留めるためにも、適切なカビ毒吸着剤を利用したいものです。コストがとかくうるさく言われる今日この頃ですが、肉質を保持する飼料成分や健康度を大きく左右するカビ毒吸着剤などは最優先で考慮しなければなりません。

紹介した野外実例はゼアラレノンで、繁殖関連の異常として不受胎、流産、外部膣炎(写真)を特徴とする毒素ですが、突然死、肺水腫、免疫抑制(フモニシ)、食欲不振や嘔吐(DON、T-2 トキシ)、成長遅延、肝障害、免疫抑制(アフラトキシン)、腎障害(オクラトキシン)など様々ですので注意しておきましょう。

飼料特にコーンの質の悪いもの、特に粉っぽいものも平気で出回っていますので注意が必要です。こうしたホコリや粉成分もわれわれ生産者はアメリカから購入していることが改めて修正が必要だと思われま



右側がマル粒で自家輸入している弊社福島農場で使用しているコーン

左側が見た目にも粉が多い最近の輸入コーン(これらが同じに扱われていれば当然栄養価に差が出てくるはず)

2009年11月 グローバルピッグファーム(株)